

第7回ニッセンライフ基金がん患者団体支援機構助成金

市民公開講座 「知ることは力になる」

～がんを告げられた時、最初に知っておきたかったこと～ 報告書

平成 29 年 3 月 27 日

NPO法人 希望の会

理事長 轟 浩美

1. 実施概要

企画名：市民公開講座 「知ることは力になる」

～がんを告げられた時、最初に知っておきたかったこと～

日時：2017年3月4日（土）PM13：00～16：30

場所：聖路加臨床学術センター 日野原ホール

参加費：無料

参加者：約70名（参加者、スタッフ含む）

主催：NPO法人 希望の会

共催：聖路加国際病院相談支援センター

助成：第7回ニッセンライフ基金がん患者団体支援機構助成金



2. 実施内容

PM13:00～13:05

開会の挨拶

NPO法人 希望の会 理事長 轟 浩美氏



【がんを告げられた時、最初に知りたかったこと】

スキルス胃がんに限らず、一般的に知っていただきたいことをテーマにしています。

患者さん、ご家族のみならず、広くみなさまにお届けできたらと思い開催しました。

3年前、夫の厳しい状況を告知された時、私は頭の中が真っ白になりました。

次に『何とかして助けてほしい』という思いではち切れそうになりました。

藁をもすがる思い、動揺しているところに飛び込んでくるのは、大きな活字の本の広告や、名医と冠がついたテレビの情報。『命をお金には変えられない』

そう思いつめ、私は出来る限りのことを試しました。

がんが消えたという療法、サプリメント…。

結果、夫は体力を落としてしまいました。

治療に苦慮するがん種でしたから、後からたどり着いた臨床試験が、抗がん剤をしていないことが参加条件だと知った時、最初に情報を得なかった自分を責めました。

厳しい状況を受け入れなくてはと思うあまり、誰にも相談することなく、夫婦で離職してしまいました。【あの時に知っていたら】という後悔は、今後も消えることはないでしょう。

【状況を把握し、情報を公平に得て、自ら選択したことが後悔を少なくする】

この市民講座が、誰かの力になることを心より願っております。

PM13:05~14:00

講演演題 「緩和は大切な治療です」

林 章敏先生 (聖路加国際病院 緩和ケア科部長)



「緩和ケア」と言う名前を聞くと、
「もう治療積極的治療をして貰えない」
と思われがちですが、そうではありません。
がんと告知された直後から緩和ケアは始まっています。



告知直後は緩和ケアの占めるウエイトは小さいものです。
しかし、がん治療が進む上で、色々な「痛み」が発生します。
身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルな苦痛を合わせて、
全人的苦痛といい、その「苦痛」の治療をするのが「緩和ケア」なのです。

PM14:00～15:00

講演演題 「臨床試験、治験って何？」

設楽 紘平先生 (国立がんセンター東病院 消化器内科
先進医療開発センター 新薬臨床開発分野 併任)



「臨床試験」「治験」。

普段私達が聞きなれない言葉です。

しかし、がん治療の最先端医療はここから始まっています。

ここでは国内はもちろん、海外などで開発された新薬の有効効果測定。

実際に治療に使われている薬剤が他のがん治療に生かせないかなど、

日々がん治療について研究しています。

治療を受けたいときは、主治医に相談して、しかるべき医療機関を受診し、

色々検査した結果、対象となれば治療が受けられます。

国立がん情報センターのサイトで紹介されているケースがあります。

国立がん情報センター

<http://ganjoho.jp/public/index.html>

「臨床試験」も「治験」も未知の副作用が潜んでいる場合が多々あります。

その副作用を最小限にするためにチームでサポートして行きます。

しかし重大な副作用から命を落とす可能性も全く無い訳ではありません。

そのような事を十分理解した上で、治療を受ける事も大切な事です。

PM15:00~16:00

講演演題 「抗がん剤をただしく知ろう」

勝俣 範之先生 (日本医科大学武蔵小杉病院 教授 腫瘍内科部長)



がん治療における3つの柱。

手術療法、放射線療法、そして化学療法と言われる抗がん剤治療です。



抗がん剤治療は標準的がん治療方法として、国から認められている治療方法です。

治療は苦痛を伴うケースが多いのですが、我慢しないできちんと医療者に伝える事で、QOLを維持した治療が受けられます。

抗がん剤治療は通院で受けられるので、仕事や家事をしながらでも、治療が継続できます。海外では入院治療が必要ないとされる国もあるそうです。

特定の食物しか摂らない食事療法や、サプリメントも実は効果が無いとされています。それよりもその食事代やサプリメント代で、好きな食べ物を好きなだけ食べたほうがよっぽどいいそうです。

ネットや冊子で出回ってる「がんが消える、なくなる」等の記事の約8割はデマです。

信頼できるのは「国立がん情報センター」や「厚労省」のサイトです。

最近患者も見極める力が必要になって来ているのです。

PM16 : 00～16 : 25

シンポジウム 「知ることは力」

勝俣 範之先生 （日本医科大学武蔵小杉病院 教授 腫瘍内科部長）

勝俣先生と設楽先生お二方に参加して頂きました。



今受けている治療の事、今後の治療の事など、がん患者の悩みに1つ1つ丁寧に答えて頂きました。

お忙しい中、ありがとうございました。



質問にも誠実に、丁寧に答えいただき、来場者の方々から「やっと理解できた」「誤解していた」などの感想をいただきました。

PM16 : 25～16 : 30

閉会の挨拶

NPO法人 希望の会 理事長 轟 浩美氏



『緩和ケア』『臨床試験』『抗ガン剤』について、先生方から、思いのこもったお話をしていただきました。

普段の生活の中では、中々治療について正しい知識を得るの事を知る機会がありません。今日は本当に良い機会が出来て良かったと思いました。

PM16：30～18：00

ロビーでの懇親会



勝俣先生を囲んで、皆さん思い思いの質問をされていました。



普段医師と会話する機会と言えば病院。限られた診察時間や診察室での診察では、言えない事も多いのが現実です。

今日のように、気軽に会話することで、本当に悩んでいることを質問され、すっきりされている方もいました。